広報いまり

昭和29年8月19日
第3種郵便物認可　毎月1日発行　定価1部20円　昭和54年9月1日　伊万里市役所総務部秘書課発行　No.307

市制が施行されて25周年を迎えました。この踊りの輪のように、みんなで手をつなぎ、さらに豊かで住みよい都市づくりを目指して羽ばたきましょう。

“明日の伊万里を創造するために”

'54 9月

最悪事態の交通事故

最近、市内での交通事故が多発しています。死者が半年で昨年1年間と同数になるほど、近年にない最悪の事態となったため、7月12日に「交通死亡事故抑止非常事態宣言」を行いましたが、あいかわらず事故は発生しています。みんなで事故防止に努めましょう。

非常事態宣言後も激増

今年も9月21日から30日までの10日間、秋の全国交通安全運動が繰り広げられます。

しかし、市内の交通事故は、非常時態宣言を行ってからも減ることはなく、ますます拍車をかけています。

今年の交通事故状況をみると8月19日現在で187件発生しており、うち8人が死亡、249人が負傷していますが、これは前年同期に比べると、発生件数で23件増、死者は5人、負傷者は41人も多くなっています。

いまこそ、市民一人一人が交通事故の絶滅を願い、自らが実践しない限りは事故を防止することはできません。

市民総ぐるみで交通事故撲滅に立ち上がりましょう。

死亡事故の概要 (54.1.1～8.19)

月・日	時間	場所	原因	死者
1・2	16：55	二里町	飲酒運転	1
3・1	20：50	南波多町	前方不注意	1
5・2	6：23	山代町	脇見運転	2
6・26	0：15	山代町	速度の出しすぎ	1
7・11	4：45	二里町	安全運転違反	1
7・29	14：40	東山代町	居眠り運転	1
8・6	13：25	二里町	速度の出しすぎ	1

交通事故原因別発生状況

(54.1.1～8.19伊万里警察署調)

はない。なぜならば、神を雲の上に想像するのでもなければ、佛を偶像化して信ずる対象とする必要もなくいま身の廻りに起っているそのことを神の働きとするのであるから、事実の否定しようはなく、最も確実な神観ということになる。

しかも、どんなことでもどんな場合でも神の愛、佛の慈悲とするのであるからこれほどいま起っていることを最高に価値づけてくれるものはない。

あなたの身の廻りが最高に生かされることは、あなた自身が最高の生き方の中にあることになる。

一切の運命がそこから新しく展開をはじめる。

暑い夏が過ぎて燈火親しむ季節でもあり、人間が絶対に幸福になれる生き方の問題提起を試みてみることにした。

どんなことが起きても、それを私に対する神愛のあらわれと受けてその神愛の恵みの中に生きる生き方をわたしは求めてやまない。

「開けてみれば愛」

コマーシャルの中にも一つの真理がのぞいている。

（竹）

いまこそ市民の総力をあげて撲滅を

事故防止の実現に真剣な努力

伊万里市長　竹内通教

今年になって交通事故の激増従ってまた、それに伴う死傷者の異常な増加から伊万里市交通対策協議会では去る７月12日、「交通死亡事故抑止非常事態宣言」をして市民総ぐるみによる事故防止に乗り出したが、その後も大きな事故が次々に起きて事態は一向に好転しそうもない。

最近の交通事故で特に感ずることは、もはや自己の領域を超えて対向車など相手の動きにまで注意せねばならなくなったことであるが、そこまでの充全な察知は不可能に近い。そこで結局は各自がそれぞれの分野で交通ルールを守って貰う外はない。

この広報が各戸に届くことをキッカケに事故防止が実現するよう真剣な努力をお願いしたい。

シートベルトは命綱

シートベルトは、あなたの命の綱です。

車に乗ったら必ず着用するように習慣づけましょう。

いま、市役所職員自家用自動車会では全会員のシートベルト着用運動を展開しています。

あなたの職場や地域からも、シートベルト着用運動の輪を広げていきましょう。

町別飲酒運転検挙者数

（昭54.7.31現在　伊万里警察署調）

地区	1～6月	7月	累計
伊万里	2	0	2
大坪	2	2	4
牧島	9	1	10
立花	6	0	6
大川内	1	0	1
黒川	4	0	4
波多津	4	0	4
南波多	6	0	6
大川	2	1	3
松浦	2	0	2
二里	3	0	3
東山代	8	0	8
山代	8	0	8
（市外）	22	6	28
計	79人	10人	89人

安全運転に徹する心がまえを

伊万里警察署長　南里津代次

ここ数か月、交通事故による死者が異常に増加しています。

毎月１人、２人と尊い生命が事故の犠牲になることは、耐えられないことです。

このため、伊万里市では、市民総ぐるみでの事故防止運動が展開されています。

伊万里警察署は、関係機関、諸団体とタイアップし、広報活動の徹底、交通指導取締りの強化など、交通事故防止に全力をあげています。

しかし、交通事故防止は、市民一人一人の方々が交通ルールを守り、安全運転に徹することが最も大事です。

市民の皆様の、一層のご協力をお願いします。

S54.9

「開けて見れば愛」

これはテレビのコマーシャルに出てくる言葉であるが、わたしの人生観、否むしろ宗教感を端的に表現している思いがして、何かといえばつい口ずさんでいるわたしの好きな言葉の一つである。

これについて、コマーシャルの意味は兎も角、わたしはこう受けとっている。

「叩け、しからば開かれん」という、その開かれたところに何を見るかによってその人の生き方が決まってくるが、わたしは、神の愛、佛の慈悲以外にはないと見ることを稽古している。

世の中には、従ってまた私共の身の廻りには色々の出来事が起ってくる。その中にはいやなことつらいこともある。しかし現象はそうであっても、その底にある神の意思、佛の思いを尋ねて、開けて見れば私に対する愛以外にはないと受けとることほど確かな宗教感

800年の伝統を守る子供たち

南波多町府招の浮立

南波多町の府招では、県重要文化財に指定されている浮立を受け継ごうと、子供たちが夏休みの夜を利用して部落の公民館で練習に汗を流しています。

府招浮立は、約800年前から伝わっている笛、太鼓、カネばやしによる銭太鼓浮立で、地ばやしは33曲ありますが、今では全部をマスターしている人は数人だけとなり、このままでは絶えてしまうことから、若い人たちに受け継いでもらおうと始められたものです。

有浦区長さんは「笛、太鼓を完全におぼえるには10年はかかるため、青・壮年層では遅すぎるので小中学生に受け継いでもらおうと計画しました。子供たちは若いだけにおぼえも早くこの調子だと秋祭りには、すばらしい浮立が披露できそうです。」と話しておられました。

▲熱心に浮立を練習する子供たち

市の人口

（8月1日現在）

総人口	60, 954 人	（＋15）
男	28, 908 人	（＋24）
女	32, 046 人	（－9）
世帯数	16, 266 世帯	（＋9）

市民課調べ、（ ）は前月比

7月

貿易実績は輸入木材のみで、26億5, 900万円となり前月比11億5, 100万円の減。

輸　入

26億5, 900万円で前月比16億1, 500万円の増。内訳は南洋材が22億1, 900万円、米材が4億4, 000万円。

船舶の入港

日本船3隻、外国船17隻（パナマ13、リベリア4）の計20隻。

相談開設

お気軽に市民相談室へ

市政全般の相談　毎日
法律相談　第3木曜日
（相談員＝弁護士）
交通事故相談　第2、4火曜日
（相談員＝県交通事故相談所職員）
内職相談　毎週水曜日
（相談員＝田中寿美子）
消費生活相談　毎週月曜日
（相談員＝松尾京子）
高年齢者職業相談　毎日（土曜を除く）
（相談員＝長尾三郎・原田八郎）
社会保険相談　毎週金曜日
（相談員＝唐津社会保険事務所職員）

9月の市民会館行事予定

- 毎週金曜日　9時30分～15時
  運転免許証更新時講習会
- 4日（火）　9時～17時
  老人福祉大会（市福祉事務所）
  老人趣味作品展（ロビー）
- 6日（木）　13時～17時
  1日健康教室
- 7日（金）　16時～18時
  学校代表者会（佐教連）
- 13日（木）　13時～17時
  衛生週間説明会（伊万里労働基準監督署）

子供から手厳しい意見

「楽しい親と子の対話の集い」で

国際児童年を記念して「楽しい親と子の対話の集い」が、8月19日、大坪公民館で開かれました。

この集いは、県と市の共催で市内各地域から60組の親子が参加して行われたもので、子供は親へ、親は子に、グループに分かれ話し合った要望や意見をまとめ発表し、それによって楽しい雰囲気の中で話し合いが進められました。

子供たちは『将来に期待をかけすぎないで』『勉強のことばかり言わないで』『ガミガミしかるのはやめて』などの要望や『大人があいさつをしない』など、手厳しい意見を出していました。

▲大坪公民館で開かれた親と子の対話のつどい

第2回 国見台陸上競技カーニバル

伊万里市と市体育協会、佐賀新聞社主催による第2回国見台陸上競技カーニバルを10月10日体育の日に開催します。

▲日時　10月10日（体育の日）
午前9時開会

▲場所　国見台陸上競技場

▲種目

〔リレーの部〕

◦小学生　4×100m（4.5.6年男女）

◦中学生　(男)4×200m
(女)4×100m

◦高校生　(男)4×100m・4×400m
(女)4×100m

◦職　域　（男・女）4×100m

〔一般競技の部〕

◦小学生　（男・女）100m

◦中学生　(男)400m・2,000m
砲丸投・走高跳
(女)800m・砲丸投
走高跳

◦高校生　(男)800m・5,000m
円盤投
(女)400m・円盤投

◦一　般　(男)5,000m

◦共通（高校・一般）
(男)走高跳　(女)走幅跳

▲申込締切　9月26日必着

▲申込先　市陸上競技協会事務局　吉武正美氏（〒848－01 伊万里市黒川町塩屋134）または勤務先の伊万里中学校へ。

就業構造基本調査にご協力ください

総理府統計局では、国民の就業・不就業の状態を種々の面から詳細にとらえる昭和54年就業構造基本調査を10月1日現在で行います。

10月8日頃から、統計調査員が対象となった世帯に調査票の依頼に伺いますので、よろしくご協力をお願いします。

特別弔慰金を支給
戦没者遺族の方

今年5月、戦傷病者及び戦没者遺族の援護措置として、特別弔慰金支給法等が改正され、次のような方々に国債が支給されますので、早めに市福祉事務所で請求手続きをしてください。

〔戦没者遺族特別弔慰金〕

公務扶助料、遺族年金等の受給者が、昭和50年4月1日から昭和54年3月31日の間に死亡されている場合、戦没者の兄弟姉妹等に国債（額面12万円）が支給されます。

※請求手続きや問い合わせは市福祉事務所へ。

（☎③2111、内線261）

≪国保コーナー≫
高額療養費支給制度について

【質問】

高額療養費支給制度というものがあり、病院の治療費が三万九千円以上かかった場合、超過分は返還されるとききました。

どんな場合でも、月三万九千円以上は払いもどしがあるのでしょうか。

【お答え】

ひとりの患者が一か所の病院などにかかり、一か月に三万九千円以上の自己負担額（医療費の三割）を支払った場合、その三万九千円を超えた額は保険給付の場合、国民健康保険から支給されます。これを高額療養費支給制度といい、重い病気やケガをしても、医療費の自己負担額は月三万九千円までということになります。

〔自己負担額の計算法〕

▼一日から月末までの受診について一か月とし、各月ごとに計算します。

▼医療機関ごとに計算します。（病院がちがったり、同じ病院でも診療科がちがう場合は別の医療機関とみなします）

▼入院と通院は同じ病院でも別計算です。

▼入院の際の差額ベット代や電気料等、保険給付の対象とならないものは除きます。

〔申請に必要なもの〕

▼国民健康保険被保険者証

▼病院の領収書（治療を受けた月が記入されたもの）

▼印鑑（認め印でよい）

▼世帯主名義の預金通帳（郵便局以外のもの）

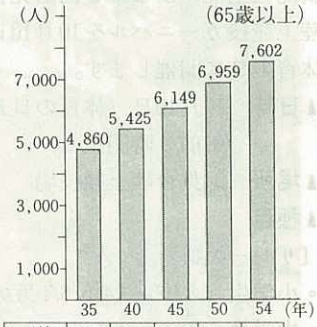
※支給については、書類の審査その他で約三か月程後になります。

詳しくは市民課国保係へ（☎③2111・内線2212）

あなたと考える　高齢者社

◀心のふれあうひとときを過ごす家庭奉仕員の池田さん

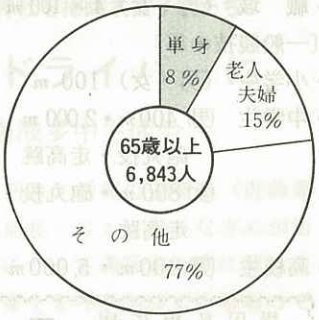
●増え続ける高齢者



人口割合%	6.2	8.1	10.0	11.4	12.2

国勢調査より54年は7月1日

65歳以上の世帯状況
(S53.11.1現在調)



かけ足でやってくる高齢者社会

わが国は世界でもトップクラスの長寿国です。60歳以上のお年寄りの方は約1,400万人で、総人口の12%（市は10,478人で市人口の16.8%＝8月1日現在調）を占めています。

つまり100人のうち12人（市は16人）が、お年寄りというわけですが、これが26年後の昭和80年には100人当たり20人を超えると予測されています。

このことは、国民全体の2割が60歳以上のお年寄りとなり、しかも高齢者社会へのテンポは速く、かけ足でやってきていることがうかがえます。

そして、この時にお年寄りの仲間入りをされる方は、いま働き盛りの35歳以上の方々です。

つまり「老人問題」は、私たち自身の問題なのです。

お年寄りの福祉を進め、生きがいのある社会を築くにはどうしたらよいか、世代を越えた連帯の中で、私たち一人ひとりが力を合わせて解決していかなければならない課題ではないでしょうか。生きがいのある社会を共に築いていきましょう。

増え続ける老人世帯

みんなで築こう豊かな老後

「人生70年」は、あたり前のことになりました。

これは、高齢者社会への第一歩を踏み出したといえましょう。

老人問題は、単に老人人口が増えたことだけでなく、核家族の増加、扶養意識の変化などから、高齢者世帯の増加も目立ってきています。

ひとり暮らしのお年寄りは、全国で約66万人（市は400人）にのぼると推定されています。

老後をいかに生きるかという面にも、目をむける時を迎えたのではないでしょうか。

老後を豊かに過ごすための、「生きがい対策」がより重要な意味をもってきました。

あなたは、老後をどのように過ごしたいとお考えですか。

会を見る

９月15日は「敬老の日」。この日から１週間は「老人福祉週間」が始まります。
長寿を心からお祝いするとともに、お年寄りの福祉を進め、生きがいのある社会を築くために、世代を越えた新しいコミュニケーションをはかる必要があるのではないでしょうか。
敬老の日を機会に、みんなで老後について考えてみましょう。

老人に社会参加の道を

市老人クラブ事務局長　古賀竹一さん（64歳）

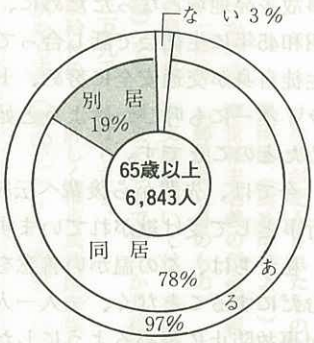
昔のお年寄りは、いつまでも家庭の中心的存在として、家計や社会の役に立っていたようですが、今は生活様式も変わってきて、年寄りは時代に取り残され、何もすることなく時間をもて余している人もいるのではないでしょうか。

年寄りは、誰れしも今日まで培ってきた知識と経験を、家庭や社会に役立てていきたいと思っているのですが、その機会も少なくなってきています。

生きがい対策として「花つくり奨励運動」などもありますが世代を越えた連帯と話し合いの輪を広げて、もっと年寄りを活用する方途をつくることが大切です。

余力と時間のある年寄りは社会の役に立ちたいと願っています。

老人世帯の子供の状況



キャンペーンシリーズ№13

愛の一声運動

ひとり暮らしの老人に「愛の一声」をかける運動が展開されています。

この愛の一声をかけておられる方は、現在132名おられ、訪問対象者143名に毎日１回、愛の一声をかけ、話し相手や相談を受けています。

友愛訪問運動

市内には、ひとり暮らしの老人の方が398人おられます。

この方たちを訪ね、話し相手になっている友愛訪問運動が展開されています。

これは、市老人クラブが行っているもので、訪問対象者108人の方を、仲間の63名の方が訪ねておられ、年間の訪問日数は延1,225日となっています。

訪問しない日の安否が気がかり

家庭奉仕員　大久保　恵　子さん

私は奉仕員になって９年になります。

市内のねたきり老人やひとり暮らしのお年寄りの方５人を受け持っており、週２回の訪問をしてお世話をしています。

仕事は、食事の世話、衣類の洗たく、つくろい、掃除買物から、生活、身の上相談など毎日が多忙ですが、喜ばれるのでやりがいがあり、この仕事に生きがいを感じています。

また、仕事を通していつの間にか、肉親と変わらない身近さを感じるようになりました。今では、訪問しない日の老人の方の安否が気がかりでしようがありません。

家庭奉仕員は市内に６人いますが、一人の老人のお世話をする時間は、本当に限られています。まわりの人たちの温かい見守りで、もっと助け合いが出来たらと思います。

ありがとう あなたの善意

心あたたまる町の話題　～その8～

環境づくりに励む筒井子どもクラブ

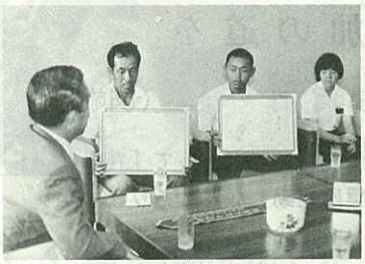
優良団体で全国表彰

波多津町筒井部落の子供たちは、ふるさとの環境づくりは自分たちの手でと、神社の境内や公民館などを掃除したり、道路沿いに散乱している空カンやゴミなどを拾い集めています。

この美化活動に励んでいるのは筒井子どもクラブ、会長奈良崎弘幸君ら40人の小中学生で、毎週日曜日の朝になると、各自が家からホウキやカマなどの清掃用具を持って集まり、手分けをして部落内の公共施設などを清掃しています。

同クラブが清掃など部落の環境づくりに取り組んだのは、お父さんやお母さんが子供のころからとのことで、長い伝統として親から子へと受け継がれてきているものです。

この活動が認められて、このほど全国子どもクラブ連合会から優良団体として、全国表彰を受けました。



▲受賞を喜ぶ筒井の皆さん

▲神社を掃除する子供たち

折りづると短冊をドライバーに

交通安全を呼びかける南波多中生徒会

南波多中学校（相良廣校長＝155人）の生徒会では、交通事故防止を願い、学校近くの国道202号線沿いで「折りづる」と「短冊」をドライバーに配っています。

これは、10年前から続けられているもので、毎月8の日に全校生徒がつくった折りづると「安全運転ありがとう」「飲酒運転事故のもと」など書いた短冊を生活部の安全班（近藤薫充部長＝8人）のみなさんが街頭にたって通行する車に配り交通安全を呼びかけているものです。

▲交通安全を願い短冊を贈る南波多中の皆さん

南波多町は、佐世保と唐津・福岡方面への主要道路が通っており、そのため交通量も多く、事故多発地域となったために、昭和45年に生徒会で話し合って生徒自身が交通安全に努め、ドライバーにも呼びかけようと始めたとのことです。

今では、先輩から後輩へ伝統行事として受け継がれています。

私たちは、この温かい善意をむだにすることなく、一人一人が事故防止に努めるようにしたいものです。

▲消防夏季訓練　965名の消防団員が参加し、消防署前訓練場で夏季訓練が行われました。（８／19）

▲夜空に華やかな光の祭典
夏の夜を色どる花火大会が伊万里河畔で行われました。（８／10）

いま伊万里で

◀南波多町で青空市長室
各町を巡回して地域の実態をより正確に把握しようと青空市長室が開かれました。（８／21）

▲早朝ソフト・早起き野球大会終る
ソフトは社会保険浦ノ崎チーム、野球は光友クラブがそれぞれ優勝しました。（８／10・19）

◀自然の中で少年郷土教室開催　郷土を築く青少年のつどい「少年郷土教室」が滝野小中学校で開かれました。（８／２～４）

▲ドライバーに冷茶の接待
山代町交対協と母の会はドライバーに冷茶やアメをサービスして安全運転を呼びかけました。（８／19）

市内各所で敬老会
老人福祉週間
9月15日～9月21日

市福祉事務所は昭和54年度の敬老会を9月15日と16日に、老人福祉センターなど市内14か所で行います。

今年、対象となられる75歳以上のお年寄りは、2,887名（男1,089名女1,798名）で、このうち95歳以上の高齢者は、最高齢の草野ツナさん（102歳）をはじめ10名いらっしゃいます。

〔市内の高齢者〕（敬称略）

草野ツナ（102歳、東山代町脇野）
古賀ミス（97歳、栄町）
武藤藤四郎（96歳、東円造寺）
山口チエ（96歳、二里町大里）
高田シノ（96歳、波多津町井野尾）
山本シナ（96歳、山代町立岩）
松尾勢一郎（96歳、松浦町桃川）
前田栄吉（96歳、二里町西八谷搦）
川原キチ（95歳、立花町富士町）
原　サノ（95歳、大川町内平尾）

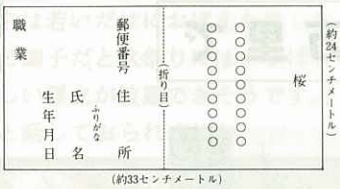
来年の歌会始
お題は「桜」
詠進は10月11日まで

昭和55年歌会始のお題は「桜」と定められました。

（注）花木の桜ですが、花と読むことはふさわしくありません。

▲詠進要領
- 自作、未発表の作品1人1首
- 用紙は半紙（習字用・白がよい）をし、毛筆で自書する
- 書式は図のとおりで、職業は

書式図



なるべく具体的に書く

▲詠進の期間
9月1日から10月11日まで
（郵送の場合、当日消印有効）

▲郵便のあて先
〒100 東京都千代田区千代田1番1号「宮内庁」とし、封筒に「詠進歌」と書く

無料特設人権相談

人権や相続、家庭の問題などについて、人権擁護委員が相談に応じます。

▲日時　9月25日　10時～15時
▲場所　波多津公民館
▲担当　人権擁護委員
古川美年氏

社会同和教育三か年を顧みて

二里町内の馬場
池田　虎次郎

四十年の教員生活を終え続いて社会教育指導員として三年間、同和教育を担当してきました。

義務教育では、施設、専門職、教科書、教材教具、カリキュラム、日課表、通知表（評価）、PTA等条件も環境も整備されたレールの上を脱線しないように偏向しないようにやって行けばよかったのですが、社会教育は人間の生涯を担当する教育として、その広さ深さ、複雑さ、むずかしさを痛感し、教えるということよりも、むしろ、教えられ学ばせてもらった点の多かったことを感謝しています。

同和問題については、人類普偏の原理である人間の自由と平等に関する重要な問題として、私なりに努力したつもりですが、目に見えるものを何ひとつ残し得なかったことに対して自責の念がいっぱいです。

日本国憲法は、基本的人権の尊重を大きな柱にして「すべての国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、身分、家柄により差別されない」とうたっていますが、同和教育はこの憲法の精神から生まれたものといえます。

伊万里市としても、行政の責務として、対策事業も積極的に進められ、教育の面でも「同推協」や指導者講座、地域推進員、部落推進員、部落懇談会、広報活動など意欲的に取り組んでいますので、市民の方の同和問題に対する関心も高くなってきましたが、一部には今さら寝た子を起こすなとか、もう差別はない、被差別部落がないから関係ないなどという意見も出されますしまだまだ市民全体の問題として取り組んでいくまでには社会同和教育も遠くきびしい道のりが続くと思います。

同和教育は、人間が人間としての生きる権利を侵害されている現実をふまえて被差別部落の人に対する不当な差別をなくしていく教育であり、このことは一人一人の人間を大事にする人間尊重の教育であり、平和と人権を守り、差別のない明るい民主的な社会づくりを推し進めることにもなるものです。

私たちは、被差別部落のあるなしにかかわらず、自分の仕事やくらしにかかわる重要な社会問題として市民ぐるみで積極的に取り組んでいかなければならないと思います。

市職員採用試験案内

市職員採用初級試験を次のとおり行います。

▲試験区分及び採用予定人員

◦一般事務＝６名（男５，女１）◦土木技術＝２名（男）◦幼稚園教諭＝１名（女）◦保母＝１名（女）◦消防＝４名（男）

▲資格　昭和29年４月２日から昭和37年４月１日までに生まれた方。（他に居住地制限等があります）

▲申込み受付　９月10日から９月29日まで

▲申込書、試験案内の請求

直接、市役所総務課職員係で交付を受けるか、郵便で請求してください。（郵便で請求の場合、封筒の表に「採用試験申込書請求」と朱書し、60円切手をはったあて先明記の返信用封筒を同封する）

※申込み及び詳細についての問い合わせは市役所総務課職員係（☎③2111，内線411，418）へ。

水ぎわで防ごう密入国

大陸に近い九州西部は昔から正式な手続きなしに出入国する「密航者」が後を断ちません。これらの密航者は麻薬や覚醒（せい）剤などの密輸に関係している事も多く、国内に悪影響を及ぼすため、法律で厳しく処分されます。

皆さんが、海岸などで不審な点を見かけられましたら、すぐ警察へご連絡ください。

次のかたからご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。（敬称略）

社会福祉協議会へ

◆香典返しを寄付

・大川内正樹（元町　亡父正次）

・松尾雪子（大川内町正力坊　亡母キクヨ）

・古川順一（上土井町　亡姉マツエ）

・木寺正和（二里町中田　亡妻静子）

・杵嶋　清（黒川町浦分　亡父半治）

・西野忠市（大川内町平尾　亡妻ミト）

・原　政義（松浦町久良木　亡母トモ）

・永島シゲ子（山代町鳴石　亡夫清八）

・山口國男（東山代町脇野　亡母トキ）

・小嶋正俊（黒川町小黒川　亡父作太郎）

・石井久男（東山代町里　亡母ゼン）

・池田利明（大坪町祇園町　亡父弥五郎）

・吉原英雄（浜町　亡母カツ）

・出雲唯夫（東山代町川内野　亡母コノ）

・田中與市（大坪町柳井町　亡母ヤス）

・岩政態吉（瀬戸町本瀬戸　亡妻ヤス）

・小柳宣嘉（山代町久原三区　亡祖父藤太郎）

・副島勝太郎（大川内町岩谷　亡妻ノフ）

・高森　勤（波多津町辻　亡父與市）

・西　隆（脇田町下松島　亡姉浦郷芳技）

・岩本　稔（東山代町東大久保　亡父七郎）

・小島マサエ（黒川町牟田　亡夫正一）

・岩野　哲（黒川町長尾　亡長男信彦）

◆篤志寄付

・壱万円　牧野敏昭（東京都　伊万里警察署経由）

・壱万円　川添清（南波多町水留　期限満了の拾得金）

・参万円　桑原健次（東山代町里　病気の全快祝）

◆指定寄付

・前田鉄雄（二里町作井手　亡父利藤太　市身体障害者福祉協会へ指定）

（累計一七二万五、五七〇円）

教育振興奨励基金へ

◆香典返しを寄付

・田中昭一郎（東山代町里　亡父庄平）

交通遺児救済基金へ

・拾万円　吉住通泰（東山代町長浜　お見舞返しを）

体育振興奨励基金へ

◆香典返しを寄付

・日高ひさ（立花町東円　亡夫倉之助）

◆篤志寄付

・壱万円　中島紘一（新天町六五四）

消防署へ

・スイカ一一九個　伊万里青果市場（納涼市民防火のつどいに）

大川内公民館建設資金へ

◆香典返しを寄付

・副島勝太郎（大川内町岩谷　亡妻ノフ）

・西野忠市（大川内町平尾　亡妻ミト）

黒川町明るい町づくり推進資金へ

◆香典返しを寄付

・杵嶋　清（黒川町浦分　亡父半治）

◆指定寄付

・小島マサエ（黒川町牟田　亡夫正一　黒川町スポーツ障害基金と消防団黒川分団へ）

大坪地区社会教育振興資金へ

◆香典返しを寄付

・田中與市（大坪町柳井町　亡母ヤス）

波多津町コミュニティ推進委員会へ

◆香典返しを寄付

・前田　悟（波多津町板木　亡母ハル　老人クラブ指定）

・高森　勤（波多津町辻　亡父與市　老人クラブ指定）

南波多公民館施設整備資金へ

◆香典返しを寄付

・前田サツイ（南波多町大川原　亡夫忠男）

二里町明るい町づくり推進資金へ

◆香典返しを寄付

・前田鉄雄（二里町作井手　亡父利藤太）

山代町コミュニティセンターへ

◆香典返しを寄付

・貞方喜延（山代町野々頭　亡父寅雄）

――お詫びと訂正――

8月号寄付欄中、井手勝洋さんの記載に誤りがありましたのでお詫びして次のとおり訂正いたします。

・井手勝洋（南波多町井手野　亡祖母松代　南波多小学校指定）

こどものページ

国際児童年記念

「世界ジュニアシンポジウム」に参加

健康優良校で松浦小 野村君ら

▲シンポジウムに参加した松浦小の皆さん

〔6年〕　野村弘文君　山口剛君　飯盛敏彦君　村岡恵美子さん　小松小百合さん

〔5年〕　松尾陽一君　浦郷竜児君　池田浩子さん　溝上靖江さん　原　美也子さん

松浦小学校の野村弘文君（6年）ら10名は、7月26日から5泊6日間、三重県鈴鹿市で開かれた「世界ジュニアシンポジウム」に参加しました。

これは、各国の子供たちが一同に集まり、自然の中で生活を共にしながら、テーマをきめて話し合ったり、楽しいレクリェーションやタイムカプセルを作ったりして友情の輪を広げ、社会勉強をしてもらおうと、国際児童年を記念して朝日新聞社などの主催で行われたものです。

この大会に参加することができるのは、健康優良学校の子供たちとなっており、松浦小学校は3年連続優良校として表彰を受けましたので、そのごほうびとして佐賀県を代表して招待を受けたものです。

代表で参加した松浦小学校の10名は次の方です。

世界ジュニアシンポジウムに参加して

松浦小学校六年　山口　剛

七月二十七日、鈴鹿ホンダランドに着いて、次の日グループ別に分れた。生活班は八人、ぼくの外七人の中の二人は、ぼくと同じ学校の敏彦君と陽一君でした。

出発前に校長先生から、たくさんの友達を作るようにといわれていましたので、ぼくは、さっそく栃木県の小野君と友達になり、いつまでも仲良しでいようと約束をしました。

グループ別にシンポジウムのテーマにそって、未来の交通について話し合いました。ぼくたちの話し合ったことは、地球を五時間ぐらいで一周することのできる飛行機を作ろうということでした。

そのあと、世界と日本の子供展で作る人文字のパネル製作をしました。のり付けの道具がたりなくて、板に真っすぐ手でのりを付けとても苦労して作りました。

七月二十九日、パネルも未来の飛行機も出来上がりました。飛行機の想像図はぼくが班を代表して書きました。

夜は、キャンプファイヤーで楽しい一時間半が過ぎました。真暗なやみの中でたいまつの火がつぎつぎにともされて、大きな輪になり、それがやがて、ひとつの大きな点となって火がともされました。風に火の粉がまい、夜空に美しく映えました。なんともいえぬ感動にぼくはひたりました。明るくなった場内では、ゲームがいろいろだされ、ぼくたちの班からはジャンケンゲームをだしました。

最後の日は、各グループで製作した作品をもちよって、みんなの前で発表するのです。ぼくがおどろいたのは、海底都市についての発表でした。海の底にあんなりっぱな都市が作れたらいいなあと思いました。

五泊六日のシンポジウムに参加して、ぼくは、ひとまわり大きく成長したような気がします。今までかぎられた友達とのつきあいでしたが、これからは友達が全国にいるというたのもしい気持ちと、ぼくは佐賀県の代表として参加したというほこり。それがぼくの胸の中で大きく広がっていくのです。このとてもすばらしい経験を、今後の学校生活やぼくの人生に生かしていきたいと思う。

よくいわれる非行少年などには、ぼくはぜったいならない。もしなったら、県代表でいったぼくのほこりがきずついてしまうからだ。

（紙面のつごうで一部はぶいてのせています）